

インフルエンザ治療薬「タミフル」に注意！

厚生労働省は、「タミフル」を服用したインフルエンザの中学生が、**転落死**するという事故が今年2月に2件発生したため、発症後2日間は異常行動をとる事があるので注意を呼びかけました。異常行動の95.6%が発症後2日間に集中しているからです。

そして厚労省は、**小児や未成年の患者が自宅で療養する場合、①異常行動が起きる可能性を医師が説明する。②インフルエンザ診断後、少なくとも2日間、1人にならないよう保護者が配慮する。・・・**ことが事故防止に必要であるとしています。

「タミフル」は2001年2月に国内で発売された（米国では1996年）、インフルエンザウィルスの増殖を抑制する**抗ウイルス薬**です。但し、発症から2日（48時間）以内に投与を開始する必要があります。

「タミフル」を服用すると高熱でうなされていた人が、翌日には解熱し何もなかったように元気を取り戻すため、我々医療現場では**インフルエンザの特効薬**として重宝しています。これまで腹痛、下痢、吐き気、めまいなどの報告はありましたが、気にするほどの重篤な副作用はありませんでした。



「タミフル」は発売以来、国内で延べ約3500万人に使用されているようです。「鳥インフルエンザ」にも有効とされているため、国内備蓄も積極的に行っています。その事もあって全世界での使用量のうち約75%が日本で消費されています。同2位の

米国と比べ、子どもへの使用量は約13倍とされています。ですから副作用報告も日本が断然多いはずです。

平成17年（2005）11月に、「タミフル」を服用した患者2人が異常行動で死亡しました。1人（17歳）は車道に走り出て大型トラックに跳ねられ、もう1人（14歳）はマンションの9階から転落死しています。この時にも厚労省は、インフルエンザ脳症による意識障害や解熱剤による副作用も否定できないと、「タミフル」の副作用としての因果関係は不明であると否定的でした。

今回厚労省が注意を呼びかけましたが、事故を起こしている患者は、特に思春期の子ども達です。私は、その年代（思春期）には別の薬剤を使うなり工夫が必要と感じています。インフルエンザ、即「タミフル」という治療を見直し、欧米での一般的治療のように安静、水分補給、解熱薬を基本にして、「麻黄湯」や「葛根湯」などの漢方薬も積極的に使用していきたいと思います。

気象の温暖化と関係があるか分かりませんが、今年のインフルエンザ流行は例年と比べて春先にずれ込んでいます。予防接種したからといって油断せずに、基本的な手洗い、うがいなど自己管理をお忘れなく。

（たまなは）